# サンポット石油暖房機 工事説明書 FF-5010CTL

#### ■取付工事店様へ

設置工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正しく据付けてください。

- なお、この工事説明書は、工事終了後に取扱説明書と一緒に必ずお客様にお渡しください。 ●ストーブを設置する場所には、電気設備に関する技術基準、火災予防条例に定められた設置をする必要があ ります。各地区の市・町・村火災予防条例に従ってください。
- ●施工上の責任は当社では負いかねますので、万一施工上に起因する不具合が生じた場合は、貴店の保証規定 によって修理いただくようお願いいたします。
- ●ストーブ本体にテープで貼付けられている注意チラシなどは読んだ後取り除き、お客様にお渡しください。 ●取扱説明書に従って「特に注意していただきたいこと」「使用方法」「アフターサービス」「保証」について

# 安全のために必ずお守りください

●ここに示した事項は ▲ 警告、▲ 注意 に区分しています。



この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその 作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、また は火災の可能性が想定される内容を示しています。

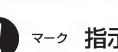
この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその

作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害の



● イラスト(まんが)の横にあるマークは次のように表しています。





発生が想定される内容を示しています。



### ⚠警告

#### 据付けや移設は、販売店または据付業者が 行ってください。

お客様で自身で据付けをされ、不備があると感電や火災の原因 になります。



据付けは火災予防条例、電気設備に関する技術 基準など法令の基準を守って行ってください。



## 安全のために必ずお守りください(つづき)

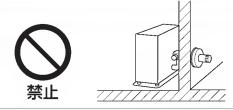
⚠警告

### 屋内給排気禁止

て危険です。

■屋内に排気すると、排ガスが室内に充満 して危険です。 必ず屋外に排気してください。

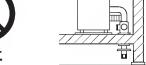




床下給排気禁止 ・床下に排気すると、排ガスが室内に漏れ

必ず屋外に排気してください。





### 給排気筒を確実に接続

● 給排気筒を確実に接続し、しっかりと固 定してください。 風、振動、衝撃などで外れたりすると運 転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



#### 給排気筒トップは閉そくしない場所に設置

積雪が多いときに給排気筒トップの周り が雪でふさがれない場所に設置してくだ さい。また、板などによる「雪囲い」は給 排気の妨げになるのでおやめください。 運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



注意

#### 次の場所には据付けない

火災や予想しない事故の 原因になります

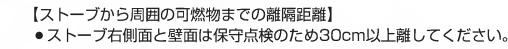


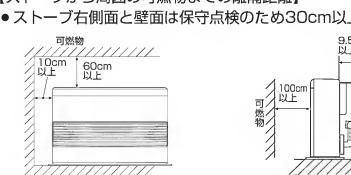
- ■水平でない場所、不安定な場所 ■不安定な物をのせた棚などの下
- ■可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- ■付近に燃えやすいものがある場所
- ■階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所 ■マントルピース内
- ■温室、飼育室など人のいない場所

## 可燃物との距離を離す

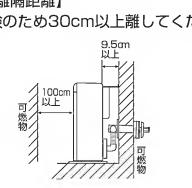
### 標準据付け例

■ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は 図のようにしてください。

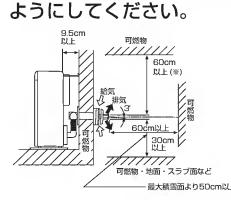


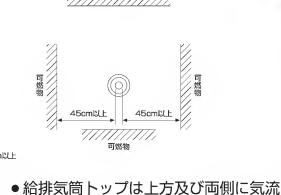


⚠注意



#### ■ストーブに附属された置台の上に据付けること。 ■給排気筒トップから周囲の可燃物までの離隔距離は図の





を阻止する障害物がないこと。

● 雪の多い地方では、最高積雪面より

壁にあわせて角度を

壁固定金具

背面カバー

調節する

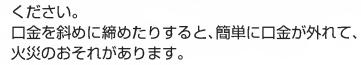
- 注(※)60cm以上の寸法は、不燃 材を使用する場合は30cm 以上とする。
- 50cm以上離れる場所に、給排気筒を 取り付けてください。 ▶上図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持

のため、不燃物などの場合も上図離隔距離としてください(※部は除く)。

### 注意

### 油漏れ確認

給油口口金は確実に締めてください。 給油口口金を下にして、油漏れがないことを確かめて

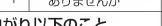




#### 給排気筒の点検

据付けが終わりましたら、もう一度点検してください。 次のような取り付けは、危険であったり、異常燃焼を おこすおそれがありますので、必ず修正してください。





接続部のゆるみは



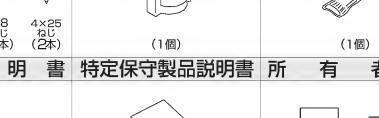


#### ● ダンボール箱からストーブを取り出し、パッキン材、テープなどを取り除いてください。 附属品の確認

開こん

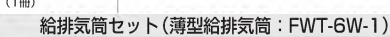
● 附属品として次のものが用意されていますので確認してください。

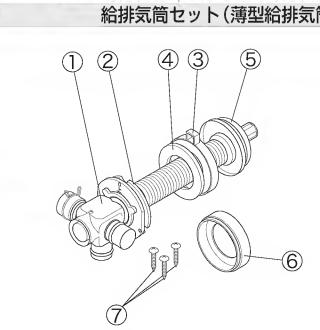












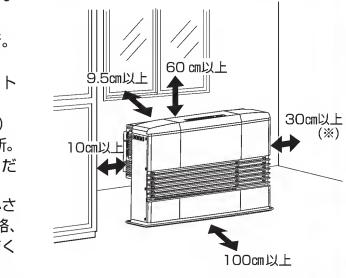
室内側給排気筒 室内側パッキン 室外フランジ 室外側パッキン 給排気筒トップ スペーサ ) 4×25ねじ 3本

## 据付け

### 据付け場所の選定

ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにな る場所を選定してください。

- ●燃えやすいものや障害物のない場所。
- 水平で安定のよい、しっかりした場所。 ●ストーブを背面で固定できる場所。 ● 電源は家庭用100Vの電源コンセント
- をご使用ください。 (電源コードの有効長さは約2mです。) ● 給排気筒が正しく屋外に取り出せる場所。
- 集合煙突には絶対に取り付けないでくだ ● 給排気筒トップは高温となります。小さ なお子さまが触れるような場所や、通路、 人通りのはげしい場所には出さないでく
- ださい。 ●灯油を燃焼させるため、点火時や消火時 ににおいが出ます。給排気筒トップは、 出入口に近い場所や外気が室内に入りや すい場所に取り付けることを避けてくだ さい。



※ストーブ右側面と壁面は保守点検の

# 据付け方法

#### 室温サーミスタの取り付け

室温サーミスタを壁面に固定してください。

- ●室温サーミスタをストーブより外し、部屋の温度 を代表できる壁面にピンなどで固定してください。 ストーブに取り付けたままですと、正しく室温 調節しません。
- 室温サーミスタのリード線の長さは約2mです。 その範囲内で取り付けてください。
- ●室温サーミスタは直射日光やふく射熱が当たる ところには取り付けないでください。 正しく室温調節しません。

### (ストーブの固定)

ストーブの固定は給排気筒を取り付けてから行ってください。

#### ■標準据付け例 1.ストーブを壁におしつけ固定してください。

壁の材質により次のように取り付けてください。

①木又は厚い合板の壁 木又は厚い合板の壁に固定する場合は、 附属のねじ(4×25)を使用して壁に

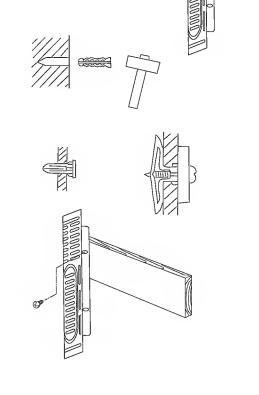
直接固定してください。 ②<br />
モルタル、<br />
コンクリートの<br />
壁 モルタル、コンクリートの壁に固定す る場合は、市販のコンクリート用プラ グ(ねじ径φ4用)を壁に打ち込み、 ①項と同様に固定してください。

③石膏ボード、薄い合板の壁 石膏ボード、薄い合板の壁などに固定 する場合は、市販の中空壁用プラグ (ねじ径φ4用)を壁に打ち込み、①項 と同様に固定してください。

は、壁にそえ木をしてから、①項と同

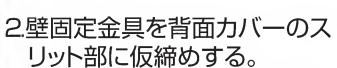
4 土壁、しっくい壁 土壁、しっくい壁などに固定する場合

様に固定してください。



#### ■コーナー設置例

1.コーナーに設置したストーブ の背面カバーに壁固定金具を あてがい、取付面を壁にあわ せてプライヤーなどで曲げて ください。

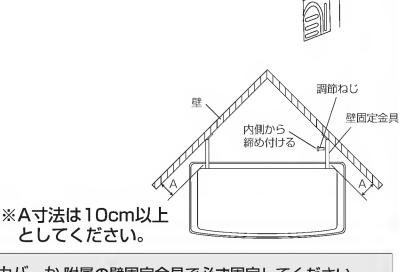


(イラストでは背面カバーの外側から 取り付けていますが設置条件により 内外どちらかを選んでください。)

3.壁固定金具を壁に固定してく ださい。

(壁の材質により壁固定金具の固定する 方法が異なりますので、「標準据付け例」 を参照して適切な方法で固定してくださ しい。)

4.壁固定金具を調節ねじを締め 付けて固定してください。



- ストーブは背面カバーか 附属の壁固定金具で必ず固定してください。 壁に固定できない場所での使用はおやめください。
- コーナーに設置する場合、A寸法は必ず10cm以上としてください。 また、右側のA寸法は保守点検に十分な距離としてください。

# 給排気筒の取り付け

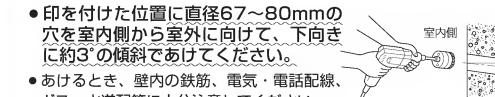
#### 標準給排気方式の工事方法 ■給排気筒及び工事部品は、給排気筒の呼び径D40の指定されたも

- のを使用してください。指定以外のものは使用しないでください。 ■附属している給排気筒セットは、壁の厚さが13cm以下、28cm 以上の壁には使用できません。
- 壁の厚さが13cm以下である場合は、別売部品の薄型給排気筒ス ペーサ、28cm以上の場合は薄型給排気筒延長アダプタを使用して ください。
- ■給排気筒の端面(パイプの先端など)でケガをしないように、手袋 をはめて行ってください。
- 1.設置場所を決めてください。
- 2. 給排気筒の穴あけ位置を決めてください。
- この工事説明書の型紙 (裏面)を壁に押し当てて、給排気筒穴位置を決め
- てください。 ●壁固定金具取付け位置のねじ穴にも印をつけてください。 (穴位置が決まりましたら型紙をはがしてください。)

## こ注意

●木造の建物で壁にメタルラス張り、ワイヤラス張りまたは金属板張りを してあるところに給排気筒を通す場合は、それらの金属部に接しないよ う電気的絶縁をしてください。 ●壁に穴をあけるときは、壁内の鉄筋、電気・電話配線、ガス・水道配管

にあたらない場所を選んでください。 3.壁に給排気筒の穴をあけてください。



ガス・水道配管に十分注意してください。 ●穴は直径80mmより大きくならないように してください。

ご注意

●穴は必ず約3°の傾斜で下向きにあけてください。 雨水がストーブ内に入って異常燃焼したり、室内や壁内に浸入すること があります。

4. 給排気筒を分離してください。 ● 附属の給排気筒を回して室内・室外側に分離してください。

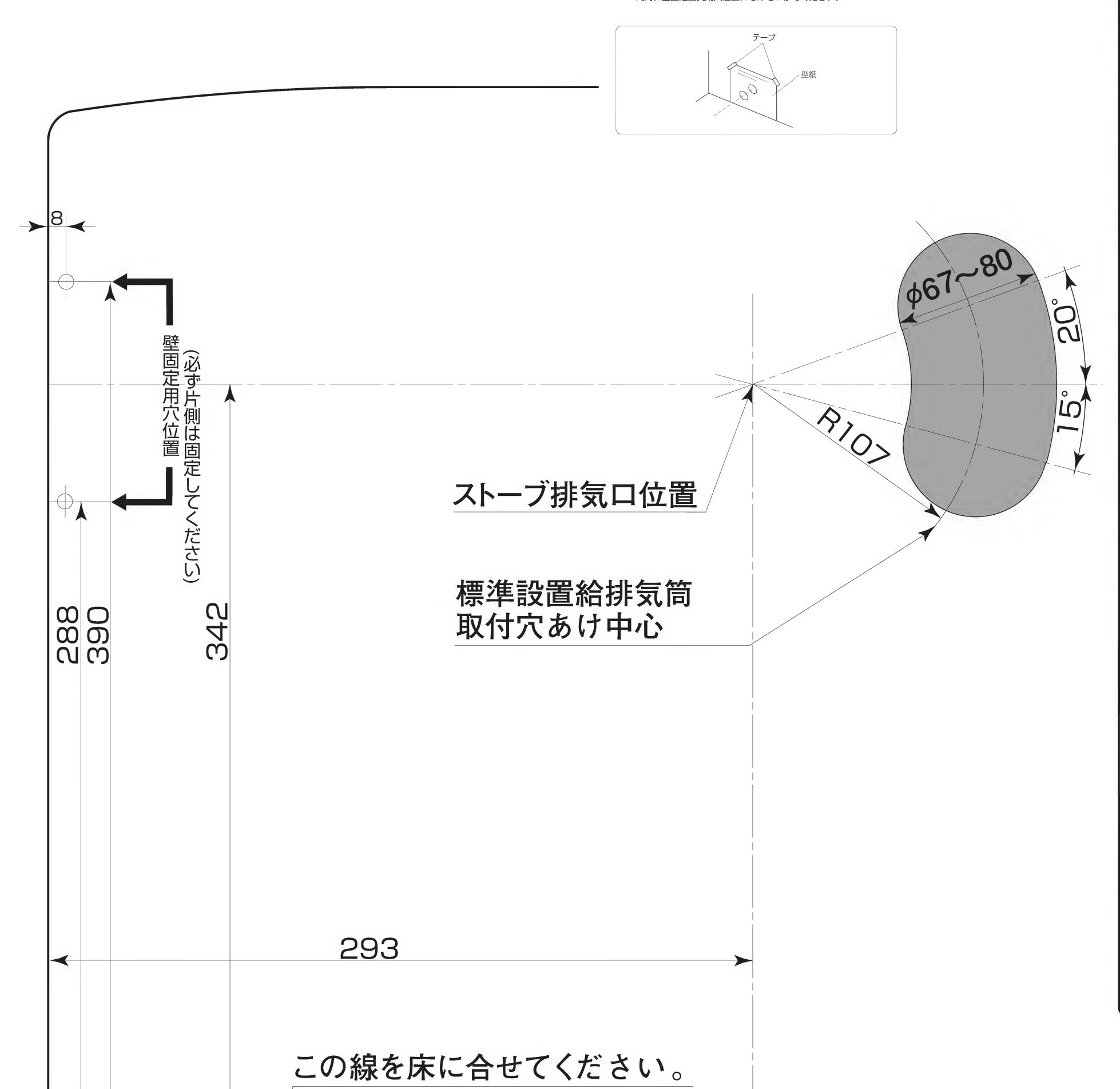
5. 室内側給排気筒を壁穴に差し込 んでください。 ●室内側パッキンを通し、壁穴に差し込んでください。



# 給排気筒標準設置取り付け型紙

### 型紙の使用方法

- 1.型紙の床面を床に合せて壁に貼り付けてください。 2.給排気筒穴位置に印をつけてください。
- ●同時に壁固定金具用穴位置にも印をつけてください。



### 給排気筒の取り付け(つづき)

#### 標準給排気方式の工事方法(つづき)

### 6. 給排気筒トップを取り付けてください。

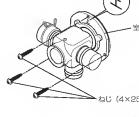
◆給排気筒トップに室外フランジ、室外側パッキ ンを通し、室外側より壁穴に差し込み、室内側 給排気筒に半分ほどねじ込んでください。



●雨水が激しくかかるところや濃霧が発生する地域では、雨水の壁内浸入を防 ぐため、ねじ込み部にコーキング剤などを塗布してください。

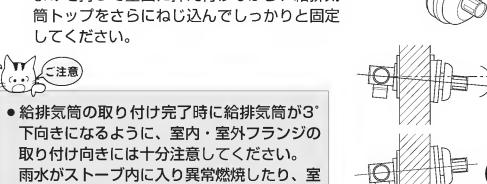
#### 7. 室内側給排気筒の室内フランジを 固定してください。

●室内フランジを「上」の文字が上になるよう に、附属のねじ(4×25、3本)で壁に固定し てください。



#### 8. 給排気筒トップを固定してください。

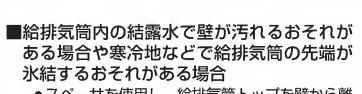
●室外フランジのつまみが上になるように、つ まみを持って壁面に押え付けながら、給排気 筒トップをさらにねじ込んでしっかりと固定 してください。



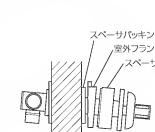
### 取り付け向きには十分注意してください。

雨水がストーブ内に入り異常燃焼したり、室 内や壁内に浸入することがあります。

●スペーサを室外側給排気筒に通してください。



●スペーサを使用し、給排気筒トップを壁から離 してください。(壁の厚さは13~25cmまで)

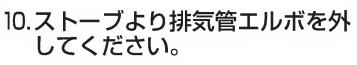


#### 9. 室外フランジ部にコーキング剤を塗ってください。

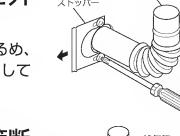
壁厚が13~16cmの場合は附属のスペーサを使用してください。



●完全にコーキングしないと、雨水が室内や壁 内に浸入することがあります。



●ストッパーを固定しているねじ2本をゆるめ、 ✔ ストッパーをずらして排気管エルボを外して ください。

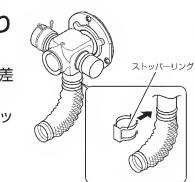


#### 11.排気管エルボに附属の排気管断 熱力バーをかぶせてください。

#### 12.排気管エルボを給排気筒に取り 付けてください。

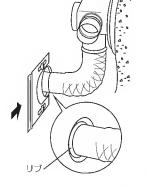
①室内側給排気筒の排気口に排気管エルボを差 し込んでください。

②差し込み部のリブをはさんで附属のストッ パーリングをかけてください。



#### 13.ストーブと排気管エルボを接続 してください。

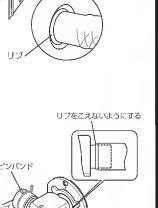
①ストーブを動かし、ストーブの排気口に排気 管エルボを2段目のリブが完全にストーブ内 に入るまで差し込んで、接続してください。 ②ストッパーを排気管エルボに押し当て、ねじ 2本を締め付けてください。



#### 14.給気ホースを給排気筒に固定し てください。

● 給気ホースに附属のワイヤーバンド (大)を 通してから、給気ホースを給排気筒の給気口 のリブまで差し込み、ワイヤーバンド(大) で締めて固定してください。

● 給気口は2箇所ありますので、使用しない給 気口には給気口キャップを取り付け、ピンバ ンドで固定しておいてください。



#### 15.排気管抜け検知リード線を接続してください。

①ストーブ背面に固定してある排気管抜け検知リード線をストーブより 外し、のばしてください。

②排気管抜け検知リード線の先端の端子を、ねじで固定してください。

③リード線を給気ホースにビニ帯で固定してくださ い。(ビニ帯はあらかじめリード線を固定していた ものを使用してください。)

④余分なリード線をビニ帯でたばねてください。

● 排気管接続部へのストッパーリングの取り付けや排気管抜け検知リード 線の先端の端子固定を確実に行って、接触不良を起こさないようにして

排気管の接続部が外れていたり、排気管抜け検知リード線が正しく接続 されていないと、『E-19』を表示し点火できません。

リード線は給排気筒の高温部に触れないようにしてください。

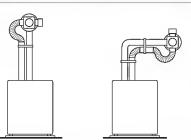
### 壁固定金具による本体の固定

給排気筒の取り付けが終わりましたら、ストーブ と壁とを附属の壁固定金具で固定してください。

●壁の材質により壁固定金具の固定する方法が異なりますので、 ストーブの固定を参照して適切な方法で固定してください。

### 延長給排気方式・高地使用時の工事方法

● 標準給排気以外にも排気管や給気管を延長し て取り付けることができます。給排気筒の呼 び径D40タイプの別売延長セットを使用して 延長工事を行ってください。延長



- ストーブについている排気管抜け検知リード線は約2mまで延長できます。そ れ以上の場合は別売延長コード線(FR-1)で延長してください。
- ●延長配管部材を使用する場合や標高1000m以上の高地で使用する場合は 燃焼用送風機の回転数を補正する必要があります。以下の手順と表を参考に して設定してください。(設定は操作部で行います。)
- 設定方法 ①電源プラグをコンセントに差し込んでください。(運転中は設定できませ
- ②室温設定/時刻合せボタン(温度調節ボタン)の『▲』とセーブボタンを
- 10秒以上同時に押してください。 ③デジタル表示部の表示が「HOEO」へ切換ります。
- ④「HOEO」の状態から『▲』を押すごとに「H1EO」→「HOE1」→ 「H1E1」→ 「H0E2」 → 「H1E2」と切換り、『▼』を押すと  $[HOE2] \rightarrow [H1E1] \rightarrow [HOE1] \rightarrow [H1E0] \rightarrow [HOEO] \succeq$ 戻ります。
- ⑤設定したい内容を表示させて設定切換ボタンを押し、通常の表示に戻せば 設定完了です。
- ※「H」:高地設定、「E」:延長設定、 「0」: 未設定、「1」「2」: 設定を表し

します。	Dの場合:「H1E1」			
	標高:1000~1500m			
3	延長	1曲	2曲	3曲
	1 m	D	D	D
	2m	E	E	E
	3 m	F	F	F
- 1	1 _ ^	F: : !		F: : 1

Dの場合:「H1EO」 Eの場合:「H1E1」 Fの場合:「H1E2」

● 延長配管の長さは3m以下、曲がりは3箇所以下になるように配管してく

それ以上延長しますと異常燃焼することがあります。 排気管の取り付けはストーブ本体出口を最も低い位置とし、上り勾配で取 り付けてください。

下り勾配や凹部になっていますと排気管にドレンがたまり、異常燃焼の原 因になります。

●排気管接続部の全てにストッパーリングの取り付けを確実に行ってください。 『E-19』を表示し点火できないことがあります。

● 最大使用標高は1500mです。

それ以上標高が高いと異常燃焼の原因になります。

●設定方法がわからなくなった場合は、電源プラグをコンセントに入れ直し最 初からやり直してください。

## 試運転

● 試運転は使用者とご一緒に必ず行ってください。 詳しくは取扱説明書の38ページを参照してください。

## 廃棄するときの注意

●ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。 リサイクルの支障となります。